

宗教と暴力

1

「一神教と多神教」。先

月三十日、京都市の同志社大学で、こんなテーマの公開講演会（主催・同大一神教学際研究センター）が行われた。演台に立ったのは宗教学者の中沢新一氏と小原克博・同大教授（神学）。二〇〇一年の9・11テロ以来、勢いを増してきた「一神教批判」を検討しようとする狙いがあった。

イスラム原理主義者によるテロ。イスラム教とユダヤ教の対立によるパレスチナ問題。ブッシュ米大統領によるイラク戦争の強行。現代の世界の主な戦乱・暴力は、すべて一神教を信じる人々が引き起こしているのではないか。他の神を排

する一神教の考え方が、現代の暴力の要因ではないか。こうした意見の高まりが、背景にはある。

講演で小原教授は、「一神教こそ元凶」とする言説が、実際に国内でいかに隆盛しているかを指摘した。

△「文明の対立」が語られている。背景にあるのはイスラム、ユダヤ、キリス

一神教は本当に問題か

ト教など、神の絶対性を前提とする一神教の対立だ。

（中略）いま世界に必要なのは、すべて森や山には神が宿るといふ原初的な多神教の思想である▽（朝日新聞・二〇〇三年元日社説）

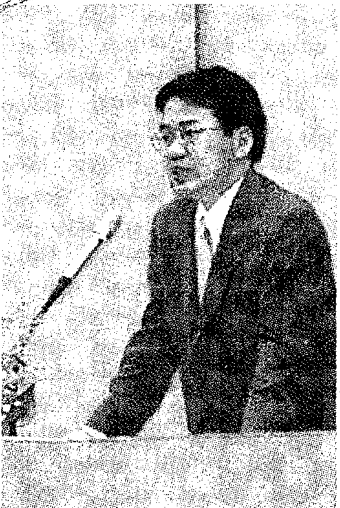
△イスラム教、ユダヤ教、キリスト教は、結局、一元

論の宗教です。一元論の欠点というものを、世界はこの百五十年で、嫌というほどたたき込まれてきたはずですから、二十一世紀こそは、一元論の世界にはならないでほしいのです。（中略）バカの壁というの、ある種、一元論に起因するという面があるわけです▽（養老孟司「バカの壁」）

ほかに、梅原猛氏や岸田秀氏、坂村健氏のユビキタス理論なども△多神教的価値▽を強調している事実が明らかにされた。

本当に一神教は問題なのか。小原教授は語る。「最近の日本での一神教批判は、倒錯したオリエンタリズムなのではないか」

西洋社会が東洋に対し固定的なイメージを割り当ててしまつた通弊は「オリエンタリズム」として批判される。しかし小原教授によれば東洋にも、西洋を固定的なイメージでとらえてしまつたバース・オリエンタリズムがある。「一神教」を西洋に配置し、それに対抗して自画像を描くために日本人が「多神教」を持ち出してゐるという構造があるという。



一神教と多神教を語る小原克博・同志社大教授

（植田 滋記者）